

5. シカゴの社会地図

パークとバージェスの指導のもとで、さまざまな都市研究があらわれた。それらの研究は、シカゴを研究対象として、社会問題や社会現象の空間的パターンを「社会解体論」の観点から分析するものであった。

(1) シカゴ・モノグラフ

●パークとバージェスの指導体制

『社会学という科学への入門』(Introduction to the Science of Sociology)。

シカゴをフィールドとする調査研究へ。社会地図づくり。あらゆるデータを地図に落とす。

「私の行ったどの授業でも、たしか、地図をつくる学生が一人か二人はいたように思う。少年非行の地図がその最初のものだったように思う。そのつぎに、映画館の分布を示す地図がつづき、それから公衆ダンスホールの常連客の分布を示す地図が出てきた。学生たちは都市に見いだされるあらゆるプロットできるデータを地図にした」(Burgess and Bogue 1964. p.5)。

「この段階は、『都市の物理的パターンを発見する段階』と呼ぶことができよう。われわれは、都市のなかのさまざまな近隣社会のあいだに大きな相違があることに強い印象を受けた。われわれの最初の目標は、その相違のパッチワークからあるパターンを見だし、『それに意味を見つけ』ようとするのであった。地図づくりはそのような問題に最もふさわしい方法であった」(Ibid p.6)

1923 年以降、地域コミュニティ調査委員会によって組織的・体系的な地区別データの収集・整理が実施される。

●シカゴ社会学シリーズの刊行

期末論文→博士論文→シカゴ大学出版会から「社会学シリーズ」として刊行。

●アンダーソン『ホーボー』(1923 年) 渡り労働者の研究。

●スラッシャー『ギャング』(1927 年) 1313 のギャング集団の研究。

「隙間地帯」に発生する「隙間集団」。

①業務地帯と住宅地帯の隙間に発生する。解体地域の組織化。

②「大人」と「子ども」の隙間に発生する。

③「移民」(第1世代:親)と「アメリカ人」(学校)の隙間に発生する。

④移民社会とアメリカ社会の隙間に発生している。→アスレチック・クラブとして制度化され、犯罪組織や政治家と繋がりをもつようになる。

●ルス・キャバン『自殺』(1928 年)

●モウラー『家族解体』(1927年)

同心円と家族類型

非家族地区：男性単身者の一時的居住（中心部）

解放された家族地区：同棲など。推移地帯の下宿屋、賄い付きアパート、居住ホテル等。

父親中心の家族地区：労働者階級地域。

平等家族地区：中産階級の住宅地区。

母親中心の家族地区：郊外地域。母親中心のコミュニティ。

家族解体率---離婚率（1919年の離婚訴訟数／1920年センサス人口）

家族遺棄率（1921年の家族遺棄申立数／1920年センサス人口）

父親中心の家族地区では、家族遺棄率が高い。

平等家族地区では、家族遺棄率と離婚率が双方とも高い。

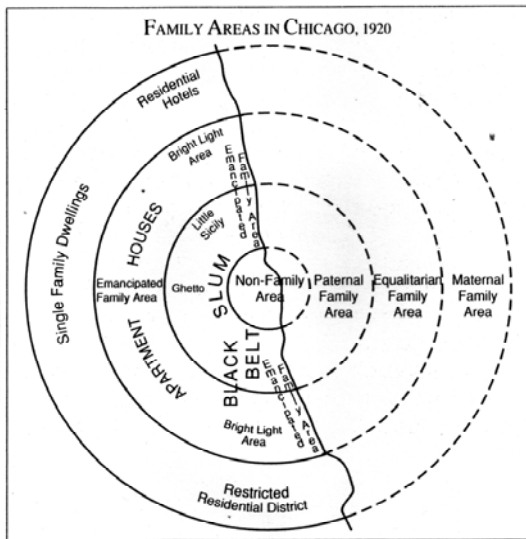
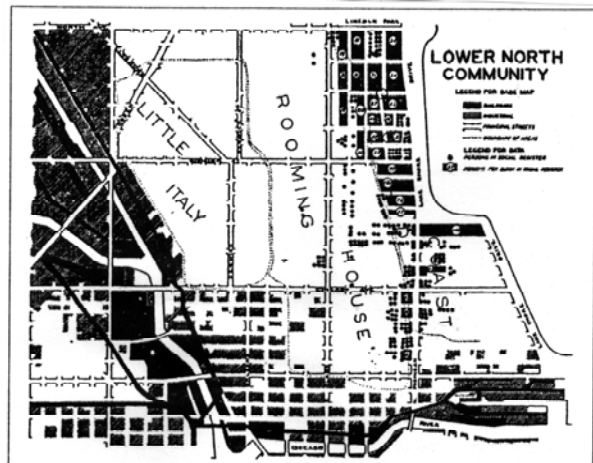
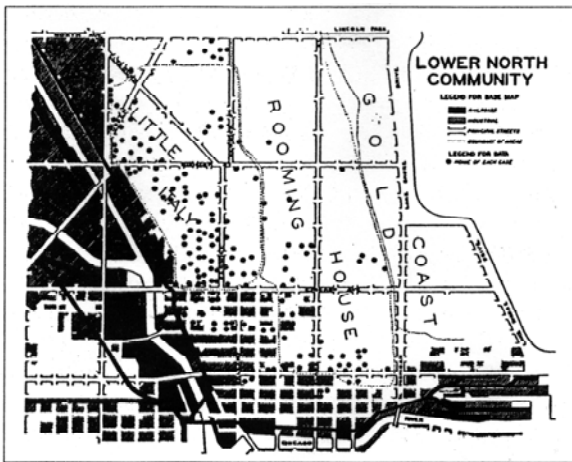


図 4.2 シカゴの家族地区(1920) 出典：Mower, 1927, p. 113



THE GOLD COAST.—Chicago's society is concentrated along the strip of lake shore north of "Streetsville," with a scattering on LaSalle, lower Rush, Huron, Superior, Ohio, and Cass, streets, fashionable a generation ago. This map, compared with those of the "World of Furnished Rooms" and "Little Sicily," brings out strikingly the segregation characteristic of the life of the great city. In this and succeeding maps the solid black areas indicate that the dots—here representing the residences of persons whose names appear in the Social Register (1923)—cluster too thickly to be individually represented.

図 4.3 ニア・ノース・サイドの『紳士録』登録者の分布 出典：Zorbaugh, 1929, p. 50



JUVENILE DELINQUENCY.—Juvenile delinquency is characteristic not of nationality, race, nor intelligence, but of the slum. It is particularly characteristic of the foreign slum, where the second generation is trying to live and adjust in two worlds with conflicting definitions of situations (data after Shaw).

図 4.4 ニア・ノース・サイドの少年非行発生地図 出典：Zorbaugh, 1929, p. 176

●ゾーバー『ゴールド・コーストとスラム』(1929年)

ニア・ノース・サイドのコミュニティ研究。

推移地帯のなかに高級住宅街ゴールド・コーストと、下宿屋街、ボヘミア街、リトルシシリー、暗黒街などがある。

社会解体論に立脚した地域コミュニティ研究。

- クレッセー『タクシーダンスホール』（1932年）

風俗産業の研究。参与観察の走り。

- ワース『ゲッター』（1928年）

ユダヤ人の歴史から説き起こし、シカゴの「ゲッター」から「ドイツ人」へと移動するユダヤ人の研究。

（2）地域コミュニティ調査委員会

- ローラ・スペルマン・ロックフェラー記念財団の研究資金の受け入れ。

- 地域コミュニティ調査委員会による75のコミュニティ・エリアの確定。

センサス・トラクト単位から地域コミュニティ単位へ

「自然地域」概念による「地域コミュニティエリア」の確定。

「われわれの仮定は、都市は、村落コミュニティとは異なる特徴的組織と生活様式をもっているというものだった。しかし、村落コミュニティと同様に、それは、各々、都市全体の経済と生活のなかで、特別の機能をうけもつ自然地域からなり、それぞれの地域には独特の制度、習慣、パーソナリティがあった」（Burgess and Bogue 1964, p.7）。

少年非行の空間構造

「マッピング・データから発見されたものは、興味深いものであった。たとえば、最初の地図は、少年非行が都市のある決まった地域に集中しており、他の地域では少なくなることを示していた」（Ibid. p.7）。

「これらの少年非行の分布に関する研究のおかげで、われわれは基礎的な社会データの必要性を確信することになった。われわれは人口データが都市の社会研究に不可欠であることを悟ったのである」（Ibid. p.7）。

国勢調査データの地区別集計へ。

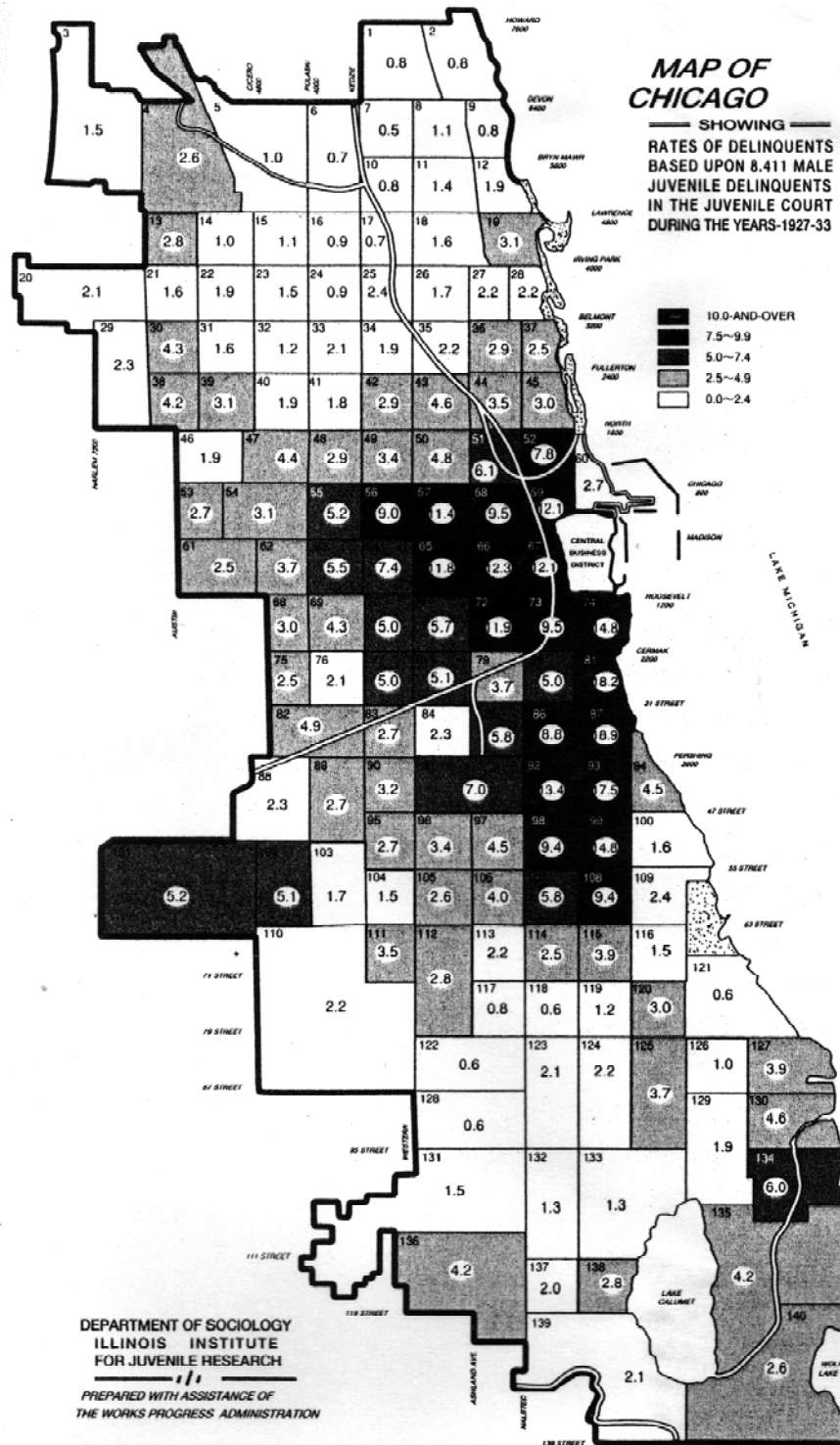
- ベース・マップ（基礎地図）鉄道、市街電車の路線、業務用地、居住用地、空き地、工業用地、公園、大通りなどを示す地図。

- スポット・マップ（地点地図）データを点で示したもの。ギャングの居場所など。

- レイト・マップ（比率地図）一定の空間単位ごとに比率を示したもの。少年非行率など。

- 75の地域コミュニティ区域の確定へ。

『ローカル・コミュニティ・ファクトブック』の編集。1930年センサス。



RATES OF MALE JUVENILE DELINQUENTS, CHICAGO, 1927-33

図 4.5 少年非行 (男子) 率, 1927-33, シカゴ市 出典: Shaw and Mckay, 1924, p. 54

(3) 近隣地区の都市 (The City of Neighborhood)

- コミュニティエリア別集計は、シカゴの伝統になる。

1940年、1950年、1960年、1970-80年、1990年 (現在77地区からなる)。

- コミュニティエリアそのものが市民に定着。

シカゴ観光局の「シカゴ近隣ツアー」

「あなたは、『近隣地区の都市』シカゴが77地区のコミュニティ区域からなっていることをご存じですか？ シカゴの豊かなブルース音楽の遺産が根づいているサウスサイドを探索してみましょう。スラブ人移民の経験について、そしてなぜシカゴがワルシャワを除けば最大のポーランド人人口を誇っているのか学びましょう。慣習ツアーの可能性はつきることはありません」。

